

## 論文内容の要旨

報告番号		氏名	上田 友哉
Non-cardiovascular death, especially infection, is a significant cause of death in elderly patients with acutely decompensated heart failure  (和訳) 高齢の非代償性心不全患者において、非心血管疾患、特に感染症は重要な死因である			

### 論文内容の要旨

Framingham 研究によると心不全患者は 75 歳以上の高齢者から多発するとされており、本邦でも高齢化社会に伴い、高齢者心不全の増加を認めている。そして心不全の予防法や治療法が飛躍的に向上したにも関わらず、依然として高齢者心不全の生命予後は極めて不良である。その理由のひとつとして、これまでに行われてきた心不全患者に対する大規模研究の多くで、高齢者が除外されているため、高齢者心不全における特徴がほとんど知られていないことが挙げられる。このため本研究では高齢者心不全の臨床的特徴及び長期予後について明らかにすることを目的とした。

対象は NARA-HF study(急性非代償性心不全のため 2007 年 1 月から 2011 年 3 月までに当院に入院した患者)に登録された 459 例とした。平均追跡期間は 20.7 ヶ月であり、174 人(37.9%)が死亡した。後期高齢者の基準である 75 歳以上(234 例)と 75 歳未満(225 例)の 2 群にわけて比較した結果、75 歳以上の群では高血圧、糖尿病および貧血の合併率が高く、虚血性心疾患や心収縮能が保たれた心不全の割合が高いことが判明した。なお心不全患者の予後の指標である腎機能、収縮期血圧、BNP 値およびナトリウム値は両群間で差を認めなかった。しかしながら死亡率は 75 歳以上のほうが 75 歳未満より明らかに高いことが判明した(46.6% vs. 28.9%;  $P < 0.0001$ )。興味深いことに、対象が心不全患者であるにも関わらず心血管死亡に関しては 75 歳以上と 75 歳未満では差を認めず、全死亡および非心血管死亡に関して、75 歳以上の群で明らかに高くなっていた。特に感染症による死亡に関しては、75 歳以上では、75 歳未満に比べ、そのハザード比はおおよそ 7.1 倍もの高値であることがわかった。

これまでも高齢者心不全患者では非心血管死亡の割合が高くなるとの報告はあったが疾患の分類まで詳細に検討した報告は本例が初めてである。